Kandai Style

2016.12 Vol.455
関西大学通信

関大生の あったか鍋特集

130 KANSAI UNIVERSITY

関大生のあったか鍋特集

Let's 鍋パーティー

寒さが厳しい季節には鍋をする機会が増えてくるかと思います。今号ではゼミやクラブ、寮など、さまざまな仲間と囲んだ鍋を紹介してもらいました。

文化会交響楽団の友人とキムチ鍋

鍋で奏でるおいしいハーモニー

文化会交響楽団は担当しているパートを問わず、練習がない日にも集まるほどみんな仲が良いです。この日は練習後に、バイオリンパートで鍋をしました。

買い出しと料理とで、役割を分担してキムチ鍋を作りました。市販のスープを使用しましたが、白菜は後藤さんの実家で作られた自慢の白菜。人数が多いのと、よく食べるメンバーがいるので鍋を作るのも一回では足りず、この時は2回作りました。具材も鶏肉だけでなく豚肉も入れて、締めはラーメンを4玉!みんな量も味も大満足でした。

「交響楽団では年に2回定期演奏会を開催しており、次回は12月16日（金）に開催予定です。ご都合の良い方はぜひお越しください。お待ちしております」

後藤 正武さん（左）　経済学部 3年次生

池永 太平さん（右）　環境都市工学部 3年次生

ドミトリー月が丘寮のみんなでみそ鍋

クリスマスはチキンとピザと鍋!味の決め手は楽しい思い出

一昨年のクリスマスに寮の仲間とこの時初めて鍋をしました。鍋のほかにチキンとピザも用意。みんなで近くのお店にピザを買いに出掛けた時、道に迷い、体が冷え切ってしまいました。しかし豆腐・えのき・白菜とつみれを入れてみそで味を調えた鍋は、みんなで工夫して作ったからか、そんな冷えた体を芯から温めてくれました。それ以降クリスマスの鍋は毎年恒例の行事です。

寮での生活は、初めは慣れないこともありますが、寂しい時や何かを相談したい時にはいつも誰かがそばにいます。今は、家族のように親しい仲間と充実した毎日を送っています。

涌井 美見さん
法学部 3年次生

留学生仲間とグローバル鍋

中華風鍋にシンガポールのスパイス

南千里国際プラザ留学生寮では、この季節になると「鍋会」も頻繁に行われます。10月の初旬の夕時にはシンガポール出身の女子学生、リュウ・ハンイーさんが「バークツテイ（肉骨茶）」という中華風の鍋料理を作りました。

骨付き豚肉やレタスなど好きな野菜に、シンガポール直送の特製スパイスやにんにくを入れて45分ほどじっくり煮込みます。スープはブイヨンに胡椒をかなり利かせたような味で、レジデント・アシスタント（RA）の一人、沢渡伊吹さんや大勢の留学生仲間が集い、にぎやかに3カ国語が話され、シンガポールの味を堪能しました。

リュウ・ハンイーさん（前列右から2人目）
留学生別科

重本 若菜さん
政策創造学部 4年次生

ゼミ仲間と塩ちゃんこ鍋

追加の「具材」は就職活動、卒業旅行など

重本若菜さんの下宿先に10月中旬、ゼミ仲間の小林春奈さんと秋山高志さんが訪ねて来て3人で鍋を囲みました。この日は「塩ちゃんこ」。秋山さんはただ狭い部屋の中をウロウロしているだけでしたが、小林さんはてきぱきと鶏肉や白菜、ニンジン、水菜、豆腐などを下ごしらえし、それを重本さんが鍋奉行として巧みな箸さばきで材料を鍋に沈めていきます。塩味のスープで煮込むこと15分。あっという間に出来上がり、食べながら話題は就職活動から卒業旅行、来春からの新生活にまで及びました。約1時間後、バターを少し入れてラーメンで締めました。

体育会本部のクラブ仲間と水軍鍋

来年こそは水軍鍋で勝利をつかむ

水軍鍋は広島県や愛媛県周辺で作られる鍋で、室町時代に水軍（海賊）が出陣する際、必勝祈願と士気向上のために食べていたと言われています。具材は魚介類が中心で、特にタコは「八方の敵を喰う」という言い伝えから欠かすことができません。水軍鍋を食べたことがないメンバーがほとんどでしたが、鍋から締めの雑炊まで大好評でした。体育会本部の活動の一つに総合関関戦の運営や企画があります。タコの言い伝えを信じて、来年の総合関関戦は水軍鍋を食べて勝利をつかもうと話も盛り上がりました。

益崎 成香さん
文学部 2年次生

みんなで一緒に考えよう。
関大誌上教室

いま、福島を考える

3.11東日本大震災から来年で6年目を迎える福島県。
現地でフィールドワークを行う社会学部・古川誠准教授ゼミの協力を得て、
現地でのさまざまな取り組みや活動を紹介します。
福島県の現状を知り、今私たちにできることを考えましょう。

福島県の位置
（福島県HPより）

福島市松川町の「かーちゃんの力・プロジェクト協議会」代表の渡邊とみ子さんにインタビューを実施

「かーちゃんの力・プロジェクト協議会」について

「かーちゃんの力・プロジェクト協議会」は、農業をする女性（かーちゃん）たちが福島大学小規模自治体研究所と共に立ち上げたプロジェクトです。それまで培ってきた農業の経験と知恵を生かし、野菜を作り、料理し、弁当を販売するなど、活動の場を広げています。

渡邊とみ子さんは震災・原発事故発生当時の暮らしを振り返り、「以前のように、自分の手で農作物を育て、生計を立てることができないことが一番つらかった」と話していました。先祖代々受け継いできた肥沃な土地は、たった一度の事故が原因で駄目になりました。来年の3月、住民たちは、暮らしていた飯舘村に帰村できることになりましたが、「戻れない」と言う渡邊さんの表情が印象に残っています。本当は以前のように飯舘村で農業をし、生きていきたいけれど、それができないからです。さまざまな気持ちを抱えながらも、未来を見て活動に取り組む渡邊さんをはじめ地域の人々に、勇気づけられました。少しでも自分たちにできることをしようと思い、率先して福島県産の物を買うようにしています。

広野町・川内村の地域産業復興についてインタビューを実施

「ひろのオリーブ村」と「川内村ワインプロジェクト」について

「ひろのオリーブ村」は、新たな町のシンボルとして、二ツ沼総合公園にオリーブを植樹し、地域住民の希望となることを目指す取り組みです。「川内村ワインプロジェクト」は、ワイン用のブドウ栽培を通して福島県の復興を目指すプロジェクトです。

広野町と川内村は、原発事故の影響で一時全村避難となりました。現在は避難解除され、帰村できますが、もともと住んでいた人の約半数ほどしか戻っていない状況です。「ひろのオリーブ村」には、オリーブの木を育て後生に残していくことで、永く地域住民の希望の光となってほしいという思いが込められています。「川内村ワインプロジェクト」は、村の主力産業だったキノコや山菜が、放射能による山の汚染で打撃を受けたため、新しい産業となるべく始まりました。将来的には、チーズやハムを特産品とする県内の地域と提携し、ワインを販売したいという地域住民の方々の思いを聞きました。そんな姿を近くで見れたことで、少しでも福島県で暮らす皆さんの役に立ちたいと思い、これらの取り組みを、FacebookやTwitterで情報発信しています。

いわき市「いわき海洋調べ隊うみラボ」の調査に同行

「いわき海洋調べ隊うみラボ」について

「いわき海洋調べ隊うみラボ」は、市民有志による海洋調査チームです。さまざまな人々の協力の下、福島の海を調べ、情報を発信しています。

いわき市北部久之浜町の久之浜漁港を出発し、福島第一原子力発電所1 .5 km沖を目指して、約1時間船に揺られます。その間、広野火力発電所、福島第二原子力発電所などのポイントで、「うみラボ」の方から原発事故が起こった当時の状況と現状についてや、原子力発電所が誘致されたいきさつ等、説明を受けました。もともと豊かな漁場ですが、沖で捕れた魚介類は「調べラボ」で放射性物質の計測をするので、食べることはできません。久之浜漁港では、ヒラメなど季節ごとに釣れる魚の種類が違います。それが地域の食文化につながっているので、口にできないことで食文化が失われていくのかと思うと心苦しいです。地域の皆さんは人柄が温かく、人とのつながりを強く感じました。町の景色はとてもきれいですし、たくさんの人に足を運んでもらい、魅力を感じてほしいと思います。

「スタ☆ふくプロジェクト」代表の学生にインタビューを実施

「スタ☆ふくプロジェクト」について

「スタ☆ふくプロジェクト」は、福島大学の学生による復興支援を行う団体です。地域の人々と協力し、「福島を感じて考える」スタディーツアーを企画・実施しています。

私たちと同じ立場の学生が、福島県でどんな活動に取り組んでいるのか知りたくて、インタビューをしました。学生だからできる支援があり、地域の方々が積極的に協力してくれると話していました。魅力的な企画がたくさんあって、2月には「日本酒を楽しむツアー」に参加します。震災発生当時、福島県は遠い所だし、自分のことのように考え行動することができませんでした。ですが、同じ日本人として人ごとではなく、どの地域でも起こりえることだと思います。福島県を訪れてみて、皆さん大変な状況の中で暮らしているのに、温かく接してくださり、私たちが元気づけられました。学園祭では、ゼミで模擬店を出店したのですが、その売り上げを全て福島県の桜の木を植えるボランティアに寄付しようと、ゼミ生全員で話し合って決めました。

保養キャンプ「吹夢キャンプ」でボランティアを体験

保養キャンプ「吹夢キャンプ」について

「吹夢キャンプ」は、吹田市を拠点に、被災地の小学校の長期休暇に合わせて保養キャンプを実施する団体です。「保養キャンプ」とは、放射性物質に関する不安から一時はなれて心身の疲れを癒やしてもらうことを目的とした取り組みです。

「吹夢キャンプ」ボランティアへの参加を決めたのは、昨年、福島県双葉町役場を訪れて、地域の方々からさまざまな話を伺ったのがきっかけです。被災地で暮らす子どもたちの生活を調べていくうちに「保養キャンプ」を知りました。ボランティアに参加したことで、震災から5年たった今でも、被災地では放射能を気にして外出を控えたり、子どもたちは思い切り外で遊べない状況であることが分かりました。ボランティア活動に参加したことで、今まで経験したことのないことを知り、経験できたことで視野が広がったような気がします。できることなら、もっとたくさんの人に保養キャンプを知ってもらい、ボランティアに参加してほしいです。

桑折町商工会青年部へのインタビューを実施

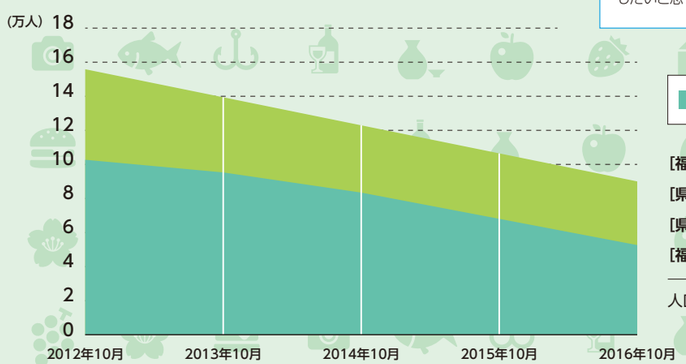
桑折町商工会青年部について

自営業を営む青年による団体で、町の商工業発展を目的に、商工業活力再生事業、ふるさと産品開発・販売事業を通して震災復興に取り組んでいます。

福島県北部の桑折町は、津波・原発事故の直接的な被害は無かったものの、震度6弱で3千軒以上の家屋が被災。震災・原発事故による人口減少、放射線による農作物の風評被害など今も多くの問題を抱えています。商工会青年部では、風評被害に苦しむ「食」をあえて取り上げ、さまざまな町おこしイベントを企画しており、10月16日には、若者をターゲットにB級グルメイベント「ふくしまバーガーサミット」が開催されました。桑折町で取材をする際は、イベント自体ではなく、関わっている“ 人 ”に注目しています。その中で感じたことは「百聞は一見にしかず」。どれだけ先に調べていても、やはり現地の方の声は重みが違います。福島に行く前は、離れた土地での出来事として捉えていましたが、自分の生活の中に福島が入ってきて、本当の意味で福島を「親身」に考えられるようになりました。ゼミや卒論のためだけではなく、関西でもできることをしたいと思っています。

福島県の避難者数

（復興庁調べ）



［福島県避難者数］ 85,404人（2016年10月28日現在）
［県内避難者数］ 44,999人
［県外避難者数］ 40,405人
［福島県人口］ 1,900,253人

人口の約4.5%が避難生活を送っている。

OPINION OF PROFESSOR 社会学部　古川誠准教授

わたしたちはついつい「被災地」「被災者」という言葉を使ってしまいます。

しかし、現実には被災地一般や被災者一般というものは存在しません。そこにあるのは、例えば福島県双葉郡広野町二ツ沼総合公園のひろのオリーブ村であり、また福島で勉学にはげみながら日本各地と福島の地域を結びつける活動をしている大学生です。

被災地イコール大変な地域、被災者イコール苦しんでいる人たち、といった認識はもちろん間違いではありません。ですがそうしたイメージでしか被災地や被災者を見ないというのは単純すぎると同時に知的には怠慢と言われてもしかたがありません。

東日本大震災とりわけ福島第一原発事故は、福島をはじめとするさまざまな地域に、そしてそこに住む人々や社会に、多くの困難をもたらしました。解決されていない課題は山積しています。しかし、それらの困難や課題に直面しながら、人々は前を向いてそして時には失敗をしながら日々を生きています。そうした現実や人々の多様なあり方を考えていくのが社会学だといえるでしょう。

次回のテーマは…「奨学金を考える」

多くの学生が利用している奨学金について、利用している人・していない人問わずどのように思っているか聞いてみました。

働く関大人 kandaijin

旅行業界／営業

株式会社 JTB 西日本

青木 智裕さん

関西大学第一高等学校出身
2016年政策創造学部卒業

多くの場所やさまざまな人との出会いが、新しい発見につながります。

株式会社JTB西日本・海外旅行西日本支店に勤務する青木智裕さんは、法人向けの営業を担当しています。主な業務は、企業や組織・団体など、法人のお客様に対して、ご要望に即した旅のプランを企画・提案、添乗を含めた運営までを行います。

1年次の時ゼミ長として、JTB西日本と共同で「淡路島に1泊する企画」を立案したことが、旅行業に興味を持つきっかけでした。また3年次の夏に、同社のインターンシップに参加したことで、「この会社で働きたい」という意識が強まったのだとか。

しかし、一つの業種だけに絞ると視野が狭くなると考え、100社以上にエントリーし、多くの人事担当者と話をしたことで、さまざまな考え方が身に付いたといいます。

青木さんはもともと旅行が好きで、学生時代にはヨーロッパや東南アジアなど、15カ国をまわりました。そこで得た体験が社会人になった今、役に立っていると話します。面接では、鉄道会社と枚方市、ゼミの3者共同で「枚方市を盛り上げる結婚式」の企画に取り組んだ点をアピールしました。

営業では、既存のお客さまだけでなく、新規取引先の開拓もあり、断られることも少なくありません。そんなときは「断られて当たり前、思いきってやろう」と前向きに考えるようにしているそうです。

先日、ある企業のグアム旅行に添乗した際、誠意をもって対応したところ、「来年も青木さんにお願いしたい」と言ってもらえたことが大きな喜びにつながったのだとか。「お客さまの声を直接聞くことができて、うれしかったです」。

「学生時代は時間があるので、いろいろな人と会って話をしてほしいです。人とのつながりが新しいこととの出会いへとつながっていくと思います」とエールを送ってくれました。

ある1日のスケジュール

9:15 出勤・顧客からのメールチェック
10:00 営業（既存顧客回り）
12:00 昼食
13:00 営業（新規開拓）
16:00 帰社・顧客からのメールチェック・企画書作成・現地情報の調査・添乗の事前準備など
17:45 退社

手帳とお客さまに合った旅行プランを提案するために手放せないパンフレットが必需品。

Sales Person

VIVA!!

学び場

法学部

「トピック演習」

白須 真理子 准教授

現代の家族問題をさまざまな視点から読み解く。

日常生活の中で起こる具体例を学び、
法律でどのように解決できるかを議論し、考察する。

一般的に親族法と相続法を総称して、家族法と呼びます。親族法は夫婦や親子関係など人の身分について定め、相続法は亡くなった人の財産の承継方法を定めています。身近な問題を扱うため、学生には取り組みやすい法律です。

家族法の中でも「有責配偶者からの離婚請求」、「不貞行為と慰謝料請求」、「性同一性障害者の婚姻と親子関係」などは、判断が分かれやすく議論しやすいテーマ。社会との関係において、法律がどのような役割を担っているかを知り、法律というフィルターを通してどのような解決策が与えられるかを考えます。法律は一人のためではなくさまざまな状況・立場の人のためにもあるので、その解釈をするに当たっては、多くの人と意見交換をして、多角的な思考を身に付けることが必要です。

白須真理子准教授の授業は、判例を読み、グループディスカッションを重ね、ディベートをする形で進みます。判例を読むと、現在適用されているルールを知ることができ、問題解決の糸口になります。グループディスカッションは、自分の意見を主張すると同時に他人の意見を聞くため、合意形成するのに役立つ訓練になります。ディベートでは、賛成派、反対派、審判の役割を一人一人が担当するので相反する意見も考えなければならず、相手の立場を理解する力が養えます。授業では、1人1回以上必ず発言する機会を設け、意見交換しやすい環境づくりを心掛けているそうです。

白須准教授は、「法律を学ぶのは難しく、つまずくこともあると思いますが、それは努力している証拠ですから、頑張ってあともう一歩を踏み出してほしい」と言います。「法曹の道に進まなくても、法的な思考過程はきっと役に立ちます。他人の意見を聴きながら、自分が大切にしたいものや人のために最善の結論を導き出せる人になることを期待しています」。

田上あすかさん（2年次生）

相続法は勉強したことがなかったのですが興味があったので選びました。実践的な授業が多いので、発言力が身に付くと思います。将来は、裁判所事務官を目指しています。アットホームなゼミなので、相続法に興味がある人にはぜひ受けてほしいです。

泉谷大地さん（2年次生）

結婚の話題を身近に聞くようになり、家族法に興味を持ちました。授業の始めに復習する時間があるため、授業に入りやすいです。討論が多いので、人の意見を受け入れて、新しい考え方ができるようになりました。

法学部
白須真理子 准教授

このゼミは、多くの事例に触れ、仲間と議論し合い、物事を多角的に見る能力を身に付けたいという学生にお勧めだと思います。深く考察し、自分の意見を述べなければならない大変な授業ですが、社会にある問題の解決のために「真剣さ」と「情熱」を持っている学生に、ぜひ参加してほしいです。

女子寮「ドミトリー月が丘」

**2016年1月号で男子学生が暮らす「秀麗寮」を紹介しましたので、
今回は女子学生が暮らす寮「ドミトリー月が丘」を訪ねてみましょう。**

千里山キャンパスから北へゆっくり住宅街を歩いて15分。4階建ての女子専用寮があります。ここでは各学年20人前後、現在は78人が暮らしています。説明してくれたのは寮長の藪下奈央さんです。熊本県出身の社会学部3年次生で、メディアの世界に興味があり、ウェブクリエイターなどを目指すそうです。寮はほとんど2人部屋で、藪下さんも最初は少し違和感があったそうですが、「母親がせっかく見つけてくれたものだったし、そのうち慣れるだろう」と入寮しました。

寮の食堂で食事もできますが、各フロアにあるキッチンで自炊する寮生も多いようです。食堂だと食事の時間が決められており、部活やアルバイトなどで忙しい学生は自炊をしています。ちなみに藪下さんの得意料理はサバのみそ煮、カレー、ハンバーグなどです。

実際、2人部屋にもすぐに慣れ、藪下さんは結構、寮生活を楽しんでいるようです。大学側の指導で今年初めてオープンキャンパスで寮を説明するブースを作りました。教室を借りて1日2回、寮の説明会を開いたうえ、寮の見学ツアーも行い、好評だったようです。

寮長 藪下さん

(注)「ドミトリー月が丘」とは――。
もともと北斗寮という男子寮でしたが改築され、2006年1月、女子寮として生まれ変わりました。51室で定員102人。在寮期間は原則4年間。

▪ 盛りだくさんなイベント

イベントも多彩です。秀麗寮の男子学生と合同のスポーツ大会を開いたり、鳥取砂丘へ2泊3日のキャンプに出かけたり、クリスマスパーティーやハロウィーンパーティーと盛りだくさんです。

▪ いつもまわりに誰かが

新入生には先輩が分担して、共同生活に必要なエチケットなどを教えます。敬語も含めたきちんとした言葉遣い。他人の部屋を訪ねるときのノックやあいさつ。たまに「なんで先輩にいちいちあいさつしなければならないのか」と疑問をもつ学生もいるようですが、藪下さんは「寮生活の潤滑油みたいなものだよ」と説明するそうです。いろいろ教えてもキッチンのシンクの三角コーナーに生ごみ以外のラーメンの袋が捨てられることもあり、「私も心が広くなりました」と苦笑いです。

3年前に卒業した長田沙織さんも寮生の一人でした。「入学式の前日に1日かけて先輩から学歌や寮歌を教えられ、翌日そのテストがあったほどで、徹底していました」と振り返ります。それでも「いつも自分の周囲に誰かがいて、安心できました。その後一人暮らしを始めましたが、当初は寂しさを感じたほど」だそうです。

困ることもあります。その筆頭は寮生でない友人を自室に招けないことで、1階の談話室でしか話せません。これは学生にとっては寂しいことですが、寮の特性からすればやむを得ないことかもしれません。

▪ セキュリティーは万全

その代わりセキュリティーは万全です。住み込みで常駐の管理人がいますし、施錠はオートロックです。もっともこの夏、4階に忍び込んだものがいて大騒ぎになりました。大きなゴキブリです。ハンガーなどをもって追いかける女性たちを尻目に、ゴキブリはパタパタとあっちこっちへ。結局、「誰かがティッシュの箱でペシっとやりました」とか。いやはや、なかなかにぎやかな寮のようです。

今月のシンクアクトさんくん
関大生の友の輪

政策創造学部3年次生

水田 伸明さん

高い目標を持って行動する、がモットーです。

スペイン留学でのチームメイトの皆さんと

2015年フットサル大阪府選抜にて

フットサルのアマチュアトップリーグ、関西リーグで国内最高レベルを誇るヴァクサ高槻。政策創造学部３年次生の水田伸明さんは、今年の春からこのチームに所属し、「アラ」と呼ばれる、素早い攻守の切り替えとタフな体力が求められるポジションで活躍しています。

小学生から中学卒業までサッカーをしていた水田さんは、高校入学と同時にフットサルに転向しました。きっかけは、テレビで見たスペインのフットサルの試合。日本よりも観客数が多く、熱狂的な応援を見て、「いつかスペインで、フットサル選手としてプレーしたい！」と強く思ったのだそうです。

水田さんはフットサルの魅力を、「スピーディーで、展開が早く、１対１の勝負が随所に見られるところ」と言います。「早い展開の中で瞬時の判断が求められるフットサルですが、実はその裏では膨大なサインプレーも行われているんですよ」と教えてくれました。「チーム一丸で戦いながらも、常に頭をフル回転させているので、体よりも頭が疲れることが多いです」。

スペインのフットサルの試合を見て全てが始まったフットサル人生。水田さんは、今年２～３月の春休み期間を利用して、スペインに単身でフットサル留学に行きました。「喜びと驚き、そして悔しさを感じた２カ月間でした」と振り返ります。「テクニック面で日本は負けていませんが、求められる動きへの対応力や試合中のとっさの判断などの“頭の良さ”ではまだまだ劣っていると実感。あとは、シュートの決定力の差も痛感しました」。

そんな水田さんの夢は、プロ選手として国内外で活躍すること。「プロ契約をしているフットサル選手はとても少ないですが、公式リーグ・日本代表入りを経て、いずれは海外でプレーしたいです」と言います。「今も選手をしながらフットサルのコーチもしていますが、将来はフットサルの普及にも積極的に貢献したいですね」。

最後に後輩へ、「目標を持って、毎日を生きてほしい」そして、「できるだけ大きな目標を立ててください。大きいほど大変ですが、その実現のために努力した経験は無駄にならないと思います」とメッセージをくれた水田さん。自身も、大きな目標に向かって一歩一歩と着実に進み続ける水田さんの今後の活躍に期待が膨らみます。

次回は、水田さんからのご紹介で田中乃絵さん（政策３）が登場。お楽しみに！

Nobuaki Mizuta

Faculties/Graduate Schools Topics & Message

学部・研究科トピックス

各学部・研究科のさまざまな活動や取り組みなど、
トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

法学部／法学研究科

研究論文の提出

研究論文の提出が求められるゼミがあります。なぜ論文の執筆が求められるのでしょうか。あるテーマについて自分で調べて考えて書くという営みは、答えのない課題を解決するのに不可欠な作業です。この経験は、課題の解決が求められる限りで、どの仕事に就いても役立ちます。そして論文は、他人からの要請（というか強制?）と締切がないと執筆しないでしょう。この小文がまさにそうです。研究論文の締切は12月15・16日です。

（学生主任　福島豪准教授）

文学部／文学研究科 東アジア文化研究科

論文構想発表会の開催

東アジア文化研究科では毎年2回、4月と9月に、博士論文・修士論文の提出予定者による論文構想発表会を開いています。今回は9月29日と30日の2日間にわたって17名が発表しました。論文作成に向けたプレゼンテーションと質疑応答の場として研究科の大切なイベントとなっています。

（副研究科長　吾妻重二教授）

経済学部／経済学研究科

ゼミナール活動の関関戦

経済学部では、10月8日に関西学院大学経済学部とのゼミナール関関戦を開催しました。2007年に関西学院大学の学内大会に参加する形で始まり、2010年に本学で開催されたことを機に「ゼミナール関関戦」との名称でホームアンドアウェイで相互に開催している、スポーツ以外の分野での関関戦です。今回で第7回目となった関関戦では、学部自治会ゼミ協議部門の活躍もあり、両校のゼミ文化の違いを越えた交流が実現できました。達成感に浸る学生、準備不足を悔やむ学生といろいろですが、各ゼミの活動に新たな歴史を追加しました。

（教学主任　佐藤雅代教授）

商学部／商学研究科

BestA で真のビジネス英語習得を!

商学部独自の留学プログラムBestA がヨーク大学（英国）で実施されました。4週間コースは8月上旬からの1カ月間、1学期コースは8月下旬から3カ月間、ビジネス英語を学びます。他国の学生との合同授業では日本語は一切禁止。英語だけの環境下で、とても自信がつきました。

（小井川広志教授）

社会学部／社会学研究科

卒論発表会 2017

心理学専攻では、1月31日（火）に卒業生の集大成である“卒論発表会”を第3学舎ソシオAV大ホールで開催します。“卒論”と聞くと、「内容が難しく、専門外には理解できない」と思われるでしょう。しかし、心理は普段あなたが感じ、考え、行動していることをテーマにすることが多く、とっつきやすいトピックであること間違いないです。さらに、専門外の人にも分かってもらおうと発表者も毎年工夫を凝らしています。テレビやネットの情報ではなく、人の心をじかに研究した学生の発表をぜひ聞いてみませんか。

（入試主任　守谷順准教授）

政策創造学部／ガバナンス研究科

学生が考える若者の政治参加

「政策創造学部生による政策提言シンポジウム」を今年も開催します。テーマは「18歳選挙権時代における若者の政治参加」。12月9日（金）千里山キャンパスで10時40分から開始です。若者の政治的関心をどのように高めるかについて、岡本ゼミ3年次生による研究発表と提言が行われます。吹田市選挙管理委員会事務局の方々による選挙啓発活動についてのお話、そして学生たちとの討論も企画しています。詳細は大学ウェブサイトなどでお知らせします。

（岡本哲和教授）

外国語学部／外国語教育学研究科

人間が紡ぎ出す言葉の面白さ

近年話題になっている「おかんメール」。中央アジアのキルギスに住むホストマザーが私に初めてくれたメールも、全て大文字でスペース無しの、まさに「おかんメール」でした。НАМИКАНДАИЖАКШЫЖУРОСУНБУБИЗЖАКШЫБЫЗБАЛДАРЧОНОЮПАТАТОКЕИ（ナミゲンキカゲンキデヤッテルカワタシタチハゲンキダコドモタチハセイチョウシテル OK）「おかんメール」は日本以外でも見られるようです。人間が日常生活で紡ぎ出す言葉の面白さには、いつも驚かされます。

（小田桐奈美助教）

人間健康学部／人間健康研究科

流れにさおさす（？）人間健康研究科

人間健康研究科が発足して3年が過ぎようとしています。その修士課程では中高の教員免許で上級の「専修免許状（保健体育）」を取得できますけど、1期生でその資格をもって教員となる人材を輩出できて喜んでおります。
今年度からは博士後期課程も開設し、高度な専門知識を求める社会人を積極的に受け入れています。学知を直接社会に還元する姿勢が本研究科の特徴です。毎年定員を超える人気の本研究科ですが、取り巻く環境は厳しく、難題に取り組む覚悟を新たにする毎日です。

（副学部長　西山哲郎教授）

総合情報学部／総合情報学研究科

ライティングラボで文章力を磨く

ライティングラボでは、学部生の皆さんのレポート、卒業論文、授業の発表資料（レジュメ・スライド）、ゼミや交換留学の志望理由書等について、日本語の文章作成を支援しています。単に添削や書き直しを行うのではなく、大学院生のTAが、皆さんと 一緒に考え、個別にアドバイスすることで、文章力を磨くことが出来ます。高槻キャンパスではC棟1階学生サービスステーション内で、月・火・木の13：00～16：10に開室しています。まずは、ラボに足を運んでみてください。

（副学部長　林武文教授）

社会安全学部／社会安全研究科

第24回公開講座を開催

社会安全学部では、一般市民を対象とした公開講座を毎年開催しています。各回のテーマは、安全に関わるものですが多種多様で、11月12日の第24回公開講座は「超変革!? 鉄道駅の安全対策」をテーマに開催しました。講座では、JR高槻駅に設置されたホーム柵の詳しい紹介や歩きスマホの危険性に関するシミュレーション結果の紹介などが行われました。身近な交通機関である鉄道の安全について、利用者として気を付けるべきことを考える機会となりました。

（入試主任　城下英行准教授）

システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部／理工学研究科

1年を振り返り、そして前に進む

皆さんの2016年はどんな年だったでしょうか。4年次生の皆さんは、特別研究（卒業論文や卒業設計）が佳境に入ったところだと思います。テーマの重要性や研究の完成度ももちろん大切ですが、目指すものに真剣に取り組んだか、より高いレベルを探求しようとしたか、といった心の持ち方が大事です。その感覚は何年たっても覚えているものです。論文提出に向けてギアチェンジしましょう。3年次生の皆さんは、就職活動が心配になってきた頃でしょうか。最近、就職に関する日程や採用の仕方について、本当のところはどうなのかについて情報が錯綜している状況です。会社説明会ではどの点を中心に話を聞けばいいのか、エントリーシートにはどんなことを書けばいいのか、悩んでしまいますね。ここはやはり、自分が過ごしてきた大学生活にどれだけ自信が持てるか考えましょう。どんな学生でも、学生生活を振り返ればそのきっかけがつかめるはずです。それを支えに取り組んでいきましょう。また、12月4日（日）には、1年次生の父母・保護者には「キャリアデザインセミナー」、2年次生の父母・保護者には「キャリアプランニングセミナー」が行われます。理工学の進路に関する総合的な説明が行われ、内定を得た学生による就職活動体験報告などが行われます。何か特別なことをしなくてもよいのです。1年生や2年生の時から、自分に問いかけた「将来なりたいもの」に向かって何をしていくべきか、家族とともに考え、進んでいくきっかけになれば幸いです。

（環境都市工学部入試主任　北詰恵一教授）

専門職大学院トピックス

会計専門職大学院

12月17日に進学説明会を開催

会計専門職大学院では、進学説明会を12月17日（土）13時～15時、第2学舎2号館で開催します。今回は、全体説明や施設見学に加えて、本大学院修了生との座談会を予定しています。それぞれの分野で活躍する修了生との座談会は、毎年とても人気があります。本説明会は、高度職業会計人に関心を持っている皆さんにとって、きっと有益な情報収集の場になるものと思います。簿記・会計の既習者だけでなく、未修者の方も含め、多数のご来場をお待ちしています。なお、会計専門職大学院の1月募集など入試の詳細につきましては、会計専門職大学院のウェブサイトをご覧ください。

http://www.kansai-u.ac.jp/as/index.html

（入試主任　中村繁隆准教授）

併設校トピックス

関西大学北陽中学校

中3中大連携プログラムを実施

模擬裁判風景

千里山キャンパスで9月13日、関西大学北陽中学校3年生が中大連携プログラムを実施しました。昨年に引き続き2度目の試みであり、大仲土和先生をはじめ、永榮久仁子先生、太田洋一先生、松本佳織先生の協力のもと、模擬裁判および評議から事前学習の講評と、多くの学習を支援していただきました。生徒たちは、興味深く多くの事例や質問を先生に投げかけ、積極的に取り組んでおり充実した一日となりました。

（北陽中学校教頭　川﨑安章）

Attention 大学からの重要なお知らせ

「定期試験（筆記試験）」「到達度の確認」の注意事項・受験心得

試験対策をしっかりと立て、1年間を有意義な結果で締めくくりましょう。

① 学生証は必需品！

学生証がない場合は、受験できません。

○紛失した場合：再発行の手続きを。
教務センター、または各キャンパス事務室にて。

○試験当日に忘れた場合：「受験許可証」の発行を。
教務センター、各学舎授業支援ステーション、または各キャンパス事務室にて。

② 遅刻は厳禁！

授業も試験も遅刻は厳禁。受験できない場合もあります。また交通機関の遅延など、不測の事態にも対応できるよう、早めの通学を心掛けてください。

③ 試験前の確認！

通常授業と教室が異なったり、同じ科目でも学籍番号によって、教室が分かれている場合があります。

○学籍番号・氏名を記入するため、ボールペンは必須です
（ただし、消せるボールペンは使用不可）

○携帯電話・スマートフォン・ウェアラブルデバイス等は時計として使用できません。

④ 不正行為には厳正に対処します！

不正行為をした場合は、原則秋学期試験ですでに受験した科目はすべて無効になり、残りの科目も一切受験できません。また、答案の持ち帰り、故意に学籍番号・氏名を偽った場合も不正行為とみなされます。

⑤ 病気など正当な理由で受験できない場合は…

医師の診断書など証明書がある場合は、「追試験」・「到達度の確認に相当する学力確認」を受けることができます（受験料1,000円）。
教務センター、または各キャンパス事務室で手続きしてください。

⑥ 成績発表の日時・確認方法

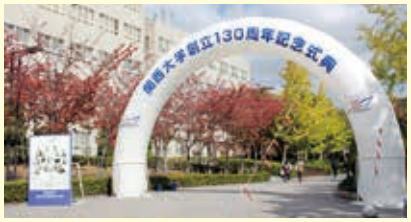
インフォメーションシステムで発表します。
詳細は「試験システム」で確認してください。

KANDAI Topics

関大トピックス

関西大学創立130周年記念式典および祝賀会を挙行

千里山キャンパスで11月4日、創立130周年記念式典と祝賀会を挙行し、来賓・大学関係者ら約800人が出席しました。式典では、創立150周年に向けての行動指針「Kandai Vision 150」を策定したことを発表。また、池内啓三理事長からの式辞と芝井敬司学長からのあいさつのほか、大坪文雄氏(パナソニック株式会社特別顧問)や南部靖之氏(パソナグループ代表取締役 グループ代表)、宮根誠司氏(フリーアナウンサー)、桂文枝氏(落語家・公益社団法人 上方落語協会会長)、岩田稔氏(阪神タイガース)、又吉直樹氏(第153回芥川賞受賞『火花』)ら、各界で活躍する本学校友からもビデオメッセージが寄せられました。さらに、有形文化財である山本能楽堂を拠点としているシテ方の山本章弘氏(校友)ならびに、同氏と親しく第一線で活躍中の能楽師・狂言方の野村萬斎氏による特別公演(能楽)を上演しました。



「関大防災Day2016 ～広がれ! みんなの安全・安心～」を実施

11月18日に千里山・高槻・高槻ミューズ・堺・北陽キャンパスで、「第7回関大防災Day」を実施しました。関大防災Dayは、2010年から始まった関西大学独自の防災啓発行事で、今年で7回目を迎えました。

「地震避難訓練」では、授業中に大地震が発生したと想定し、学生・教職員約1万人が避難・避難誘導・安否確認を実施。その他、地域大学・地域住民協同による炊出し訓練をはじめ、防災シンポジウムや火災発生時の煙体験、浸水時ドア開閉体験、日本赤十字社協力によるAED・応急処置体験、消火器・消火栓放水体験、建物上階からの降下避難体験など、防災に関連したさまざまなイベントを開催しました。

学生・教職員をはじめ多くの地域住民が積極的に参加し、今後起こりうる災害に備えるため、「防災」や「災害時の安全・安心づくり」への意識を高めました。

体育会野球部が関西学生野球連盟秋季リーグ戦で4季ぶり35回目の優勝

10月24日に京都府わかさスタジアム京都で開催された平成28年度関西学生野球連盟秋季リーグ戦で、体育会野球部が見事、4季ぶり35回目の優勝を果たしました。続く31日、大阪市南港中央球場で行われた第47回明治神宮野球大会関西地区代表決定戦では、奈良学園大学に勝利し、明治神宮野球大会への出場の切符を手にしました。

11月13日に開催された明治神宮野球大会では、明治大学相手に健闘しましたが、1対4で惜しくも敗退。集まった観客からはナインにむけて大きな拍手が送られました。

写真提供：関大スポーツ編集局

体育会サッカー部が全日本大学サッカー選手権大会に出場決定

11月12日に大阪府ヤンマーフィールド長居で行われた第94回関西大学サッカーリーグ戦で、体育会サッカー部がびわこ成蹊スポーツ大学と対戦し、0対0の引き分けとなりました。

この結果、リーグ4位が確定し、第65回全日本大学サッカー選手権大会に関西第4代表として3年ぶり22回目の出場が決まりました。初戦は12月7日(水)に東京都夢の島競技場で東海学園大学と対戦予定です。「全員サッカーで日本一」を目標とするサッカー部へのご声援をお願いします。

写真提供：関大スポーツ編集局

関大人 四方山話(よもやまばなし)◆「関西大学の学生が気づいていないこと」

名誉教授 宮本 勝浩

1970年、私は大阪大学の大学院博士課程を中途退学して、大阪府立大学の経済学部に助手として就職しました。その後、大阪府立大学で36年間教員として教育、研究に従事し、2006年から関西大学の会計専門職大学院に勤務しました。

関西大学に来た時の「カルチャーショック」は大変なものでした。私が事務室にいる時、学生が入ってくると、机に向かって仕事をしていた事務職員がサッと立ち上がって、カウンターに行き、「どんなご用ですか」と、学生が話をする前に明るく学生に聞いたのです。関西大学の学生諸君には当たり前の風景でしょう。でも、私には大変なカルチャーショックだったのです。私がこれまで経験した国公立大学では、事務室に学生がおずおず入ってきて、「あの～すみませんが…」と職員に声をかけますが、1回では職員は見向きもしてくれません。それで、学生は2～3回「あの～すみませんが…」と声をかけないといけなかったのです。そうすると、職員はイヤイヤ「え～、なに～」と言って、渋々カウンターに歩いてくるのです。どの国公立の大学も同じようなものでした。「大学では学生が主人公なんだ。学生を大事にしないといけないのだ」ということを関西大学は私に教えてくれました。学生を大切にする関西大学で学ぶ学生諸君は幸せです。

編集後記

今号を読み返すと、「いま、福島を考える」活動を筆頭に、仲間で囲む鍋、女子寮の記事など、人と人との「つながり」の温かさみたいなものを感じました。つながりは、つながっている時にはあまり意識しないけれど、それが失われた時に改めて実感されることが多いのではないでしょうか。ただ、深い愛情と喪失感は常に裏腹な関係にあると思います。「関大通信」が、何か大切なつながりを再確認するきっかけになりますように。(広報委員・社会学部准教授　雪村まゆみ)

関西大学通信 "KANDAI STYLE"
発行日:2016年12月1日(年9回発行)
発行:関西大学広報委員会
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
電話:06-6368-1121(大代表)

今月の表紙

関西学生野球連盟2016秋季リーグ戦で優勝を果たし歓喜する体育会野球部の皆さん
写真提供：関大スポーツ編集局

※表紙写真を募集しています。
関大生の皆さんから素敵な写真を募集しています。詳しくはインフォメーションシステムのお知らせもしくは関西大学公式 Instagram をご覧ください。